

まえがき

農林水産政策研究所では、平成 25 年度よりプロジェクト研究「農業・農村の新たな機能・価値に関する研究」（平成 25 年度～平成 27 年度）を実施し、これまで見過ごされて評価されてこなかった農業・農村にある新たな価値を抽出し、評価する研究分析を行ってきた。このプロジェクトでは大きく 2 つの課題に取り組んでおり、1 つが、農業・農村の多面的機能・価値としてこれまで評価されてきたものにとどまらない新たな機能・価値の抽出とその評価、もう 1 つは、特にこれまで地域資源として農村地域にありながら、見過ごされてきたバイオマスの活用方策の提示とその効果の計測である。本プロジェクト研究資料は、このうち前者について、農業・農村の新たな機能・価値の評価手法の開発に関する課題の成果をとりまとめたものである。

「食料・農業・農村基本法」（平成 11 年法律第 106 号）においても、基本理念の一つとして、多面的機能の発揮の必要性が掲げられ、施策が講じられているところである。現在、農業・農村の持つ多面的な機能に係る研究の基本となっているのは、日本学術会議「地球環境・人間生活にかかわる農業及び森林の多面的な機能の評価について（答申）」（平成 13 年 11 月）であるが、既に答申から 10 年以上が経過し、その間に、国内外で農業・農村の多面的機能・価値に関連した研究が進展している。我が国の農業・農村をめぐる諸環境が大きく変化する中、多面的機能の維持増進を図っていくことは、喫緊の課題である。このプロジェクトにおいては、(1)農業・農村の新たな機能価値の評価手法として、主観的幸福度研究の手法、GDP の代替指標としての真の進歩指標（GPI）を用いて都市と農村の比較分析や、社会心理学的アプローチによる農業・農村の新たな機能・価値の解明等を行うとともに、(2)農業・農村の機能・価値の維持増進に向けた地域的取組の機能・価値との関係や、都市から農村への移住において認識される機能・価値等について検討した。

本プロジェクト研究資料では、前者の(1)について紹介する。後者の(2)については、新たな価値プロジェクト研究資料第 2 号において紹介する。

本資料が農業・農村の機能・価値の維持増進のための基礎資料として幅広い分野で活用されることを願っている。なお、新たな価値プロジェクトのもう一つの課題である、農村地域における地域資源の活用に関する研究については、新たな価値プロジェクト研究資料第 3 号において、その内容を紹介する。併せてご覧いただければ幸いである。

平成 28 年 8 月

農林水産政策研究所

新たな価値プロジェクトチーム